

Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：和田成史 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

第35回定期総会



2015年5月27日(水)午後5時30分より、毎年恒例となる「立教経済人クラブ第35回定期総会」が日比谷松本楼にて開催されました。

総会は第1部の定期総会、第2部の講演会、第3部の懇親会と三部構成で行われました。

第1部の定期総会は総務委員長湯浅修氏(S59産・株式会社ブレン代表取締役社長)が司会者となり、総会に先立って物故者の報告と黙とうを全員で行いました。その後、司会者が開会を宣言し、会則により議長に会長である和田成史氏(S50営・株式会社オービックビジネスコンサルティング代表取締役社長)が指名され議事の審議に入りました。

1号議案の事業報告、3号議案の事業計画案は井口一世事務局長(S53営・株式会社井口一世代表取締役)より、2号議案の決算報告、4号議案の予算案は守屋裕之財務委員長(S60営・ソニー生命保険株式会社トップ・オブ・エグゼクティブライフプランナー部長)より、監査報告を北岡修一監査委員長(S55営・東京メトロポリタン税理士法人統括代表社員)よりそれぞれ報告され、全ての議案について満場一致で承認され、無事総会が閉会しました。

引き続き午後6時より、第2部の講演会が開催されました。今回は立教大学統括副総長の白石典義様より、昨今話題となっている、「スーパーグローバル大学構想」と題して立教大学の現状と今後についてご講演をいただきました。(講演内容については3頁にご紹介しております)

午後7時から第三部となる懇親会です。会員85名、ゲスト7名、来賓27名総勢、119名の参加

者となりました。

引き続き、湯浅総務委員長の司会で開宴となりました。

まず、和田会長より開宴のご挨拶として、総会が無事に終了した報告とお礼、講演のテーマでもある「スーパーグローバル大学構想」の中に出てきた、「リベラルアーツ教育、リーダーシップ教育、自己変革力」は、和田会長がモットーとしている、「オープンであり、フェアであり、そしてグローバルを目指す」と通じるものがあり、会社の経営と似ていると感じたこと、立教の卒業生はまだまだ経済界では少数民族であるが、当クラブも大学と連携して少しでも「スーパーグローバル大学構想」に役立っていきたいとご挨拶されました。

続いてご来賓を代表し、白石典義立教大学統括副総長より、本日の講演は3月26日に行った経済人クラブの幹部の皆さまとの懇談会からスタートしたこと、大学組織としてこれまで以上に経済人クラブとの関係を強固にしていきたい。そこから、校友との連携を強化して、アドバイスを頂きながら「スーパーグローバル大学構想」を具現化して行きたいとご挨拶されました。

続いて、神谷昭男立教大学院理事長より、「スーパーグローバル大学構想」をはじめ、私たちが在学していたころと比べて大学は大きく変わってきている。学院としても応援していきたい。景気が上向き傾向であり、この波に乗って様々な課題を乗り越えて生きたいとご挨拶を頂きました。



その後、来賓の方々のご紹介を司会者よりさせて頂き、さらに、名刺交換会以降に入会された10名の新会員の紹介と記念撮影を行った後、田尾兵二校友会会長より乾杯のご発声を頂き懇親会がスタートしました。

松本楼の美味しい食事とお酒に加えて、久しぶりにお顔を拝見した同友、先輩、後輩等様々なつながりに会場各所で大いに話が盛り上がり、情報交換に華が咲いておりました。

最後に中島淑夫理事(S43営・新生紙パルプ商事社友)に中締めとして一本締めをしていただき閉会となりました。

一品川 高穂 H8済一

2015年度第1回理事会

2015年5月20日(水)、新橋の中華料理店、新橋亭(しんきょうてい)で2015年度第1回理事会が開催されました。理事会は当クラブの会長、副会長や理事、顧問の先輩方々と各委員会の委員長(代理)が一同に会して年2回開催されています。議事について事務局長が中心となり報告を行い、先輩方々のアドバイスを伺います。(ちなみに参加費は自己負担です)

冒頭2014年度の物故者4名に向けて黙祷をささげた後、井口事務局長の司会により理事会がスタートしました。和田会長から参加頂いたメンバーに向け、経済人クラブの活性化に引き続きお力添えをお願いしますとの開会の挨拶がありました。その後井口事務局長より2014年度の事業報告、2015年度の事業計画報告が、守屋財務委員長より2014年度の決算報告、2015年度の予算書について報告がなされました。

2014年度の事業の特長について ①2013年度25名であった新入会員が40名と大幅に増加したこと ②研修会、名簿の広告が会員方々のご協力により予算を上回る成果であったこと ③その結果単年度で100万円超の黒字という良い決算を迎えることができた点などが紹介されました。2015年

度の事業計画については ①地方の活性化 ②会員サービスの充実 ③若い世代・女性会員の活性化を新たな課題として取り組んでいくという方針の説明が行われました。

岩田監査委員から会計監査が正しく行われているとの報告が行われ、全ての審議事項が理事会メンバーによって承認されました。5月27日の総会に諮られます。

活発な意見交換が行われた後は和やかな雰囲気懇親会がスタートしました。

顧問、会長、副会長、理事の皆様近況報告が行われ、先輩方々の貴重な体験やエピソードを伺いつつ大いに盛り上がりました。大屋理事の経営会社が東証1部に上場されたお話が話題に上がり、当クラブメンバーの活躍を参加者全員で喜び合いました。

いつもの事ながら会場と美味しいお料理、特に美味しい紹興酒をご提供下さる当クラブ顧問の呉東富先輩にこの場をお借りしまして御礼申し上げます。



当日ご出席頂いた方々は以下の通りです。(敬称略)

- 会 長 和田成史
- 顧 問 長谷川正二郎、鈴木紀子、田村憲郎、
倉石 昇、谷田 権、中島一彰、呉 東富
- 副 会 長 伊藤 守、梅田 憲司
- 監 査 委 員 岩田 護
- 理 事 富澤麻利子、加藤陸夫、大屋高志
- 事 務 局 長 井口一世
- 委員長(代理) 昆 凡子、湯浅 修、守屋裕之、安東隆司、
田中克哉、林 雄太、品川高穂

以上22名

—安東 隆司 H1社—

ウェルカムナイト



2015年6月18日(木)18:30~20:30しゃぶ禅 四谷店にて本年度最初のウェルカムナイトが開催されました。ウェルカムナイトは、新入会員となった方々を中心に気軽に参加いただける懇親会で、新入会員同士の交流を深める場とし年二回行っている行事です。今回はしゃぶしゃぶ鍋を囲みながらの着席スタイルでしたので定期総会や賀詞交歓会などと違い、ゆっくり腰を据えての会話が大変弾んだものとなりました。途中の自己紹介コーナーでも共通の友人を多々発見するなど思い出話に花が咲き予定していた2時間半の枠を超える勢い。会を中締めした後も名刺交換に思い出話にと尽きることなく、数名で次のお店へ繰り出していった模様でした。運営委員としても、かつてない盛り上がりで「経済人クラブへ出席しやすく」「入会時からお知り合いをたくさん作っていただく」という企画の目的を大きく果たしたと思っております。次回は11月ですが、通常会員の皆様も新会員様と懇親を深める場所としてぜひご出席ください。 一林 雄太 H7社—



総会 講演会

立教大学の現状～スーパーグローバル大学構想

立教大学 統括副総長 白石典義氏



定期総会に続き、講演会の部が開催されました。講演会は立教大学統括副総長 白石典義様にお越し頂き、『立教大学の現状～スーパーグローバル大学構想』についてご講演を頂きました。

講演会では白石典義統括副総長に、立教大学の現状を立教経済人クラブと共有し、今後さらなる協力関係を築いていくためにも立教大学のこれまでの取り組みと今後の方針についてお話し頂きました。

■ 重点施策

立教大学がこれまで取り組んできた重点施策としては次のようなものがあります。

- ・スーパーグローバル大学構想:国際化への飛躍
- ・キャンパスメーキング:池袋・新座・富士見グラウンドの整備
- ・リベラルアーツ教育の充実:4年間の学士教育課程を従来の2分化(教養教育+専門教育の分化)から統合化へと進化させ、学生の成長過程(導入期・形成期・完成期)に合わせたカリキュラムを提供する
- ・中長期計画の策定:立教ビジョン2024(2024年(創立150周年)を見据えて)

■ 明治大学との比較について
(NHKクローズアップ現代より)

クローズアップ現代より「10年前は明治大学と立教大学の両方に合格した場合、65%が立教を選択し、残りが明治を選択していた。しかし、今は逆転し6割以上が明治を選択している。」

このデータは多分にNHK独自のシナリオ展開によるものであり、確かに文学部と法学部の合格者については当てはまるものの、経営学部や異文化コミュニケーション学部では依然としてほとんどの合格者が立教大学を選択しています。とはいえ、立教大学も危機感を持って大学の改革に取り組む必要性を感じています。

■ キャンパスメーキングについて

キャンパスメーキングの主な取り組みには次のようなものがあります。

- ・旧図書館をメーザーライブラリー記念館とし、学院の歴史を示す展示館に変更(2階に「立教学院展示館」を設置)
- ・国内屈指の大学図書館である池袋図書館は1年間に延べ120万人の学生が利用している
- ・池袋の体育館(ボール・ラッシュ・アスレティックセンター)は50mの地下プールを整備、パラリンピックの強化選手にも利用されている
- ・新座キャンパスの陸上競技場(セントポールズ・フィールド)は公式記録が認められる公認競技場で、夜間利用も可能
- ・新座キャンパスに屋内温水プール(セントポールズ・アクアティックセンター)が完成。50m×25mの国内公認プールで、新座市民も利用することができる

- ・野球部のグラウンドは来年春より神宮球場仕様の人工芝とする予定、内野の広さを持つ屋内練習場は3月に完成した

■ スーパーグローバル大学について

スーパーグローバル大学(SGU)とは、海外大学との連携などを通じて、徹底した国際化を進めて、世界レベルの教育研究を行う「グローバル大学」を重点支援するために2014年に文部科学省が創設した事業であり、その支援対象となる大学をいいます。トップ型とグローバル化牽引型の2種類の公募が行われました。

全国から104校109件の申し込みがあり、トップ型に13校、グローバル化牽引型に24校、合計37の大学が指定されています。私立大学は14校でした。トップ型は医学部、工学部等の理系学部がないと採択は難しいといわれており、東大、京大等の旧帝大等、私立では早慶が指定されています。立教大学はグローバル化牽引型に指定されています。

事業期間は昨年度から始まり、2023年度末までの10年間で事業費(補助金額)はグローバル化牽引型の場合1校当たり年間約1億8千万円となります。

SGUに指定されたことは、補助金も然ることながら、何よりも次世代を担うグローバル人材の育成を牽引する大学として選ばれたことであり、立教大学ではグローバル視野に立つ教育を受けることができるという認知が学生に広がるというメリットがあります。

■ 立教大学のSGUの取り組み

立教大学のSGUの構想名は「グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力 -世界で際立つ大学への改革-」としています。

グローバルリベラルアーツは、欧米のリベラルアーツ大学とのネットワークを通じて、グローバルな視野に立ち、社会の変化に柔軟に対応し、新しい仕組みを生み出していく力を養うことを目指しています。

リーダーシップ教育においては、協働する中でリーダーとしての役割(shared leadership)を果たせるような人材を育てることを目指し、立教大学オリジナルのアクティブ・ラーニングによる教育を行います。立教大学のリーダーシップ教育は文部科学省でも先進的事例として紹介される等高く評価されています。

自己変革力では、カリキュラムの改革、学生の意識改革、ガバナンスの改革を進めることにより、社会全体の国際化に貢献できる、世界で際立つ大学への改革を目指しています。

また、海外への留学生数は日本全体では減少傾向といわれていますが、立教大学では毎年1,000名の留学生を送り出しています。これは1学年の学生数の25%に相当し、かつこの割合は年々増加しています。一方、海外からの留学生の受け入れは123大学から750人となっています(2013年度)。

この留学生数(送り出し)を5年後は50%、10年後に

は100%すなわち全学生が海外を経験し、在学中に1度は日本を出て外から内を見ることができる能力を身につけることを目標としています。

立教大学は1学年で4,000人の学生がいますので、立教大学の教育が社会に与えるインパクトとして10年間で4万人のグローバルリーダーを育てるということになります。さらに、グローバル化に対応した大学入試改革による中等教育、すなわち志願者へのインパクトは、立教大学の毎年の受験者数は6~7万人ですので、10年間で延べ60~70万人となり、大学入学者の質の変革を促すことが期待されます。

■ 教育課程の整備

大学教育の改革は、今後の日本がどう変わっていくのかを捉え、大学ひいては日本のグローバル化を牽引する方向性を持つことが肝要になります。

- そのための取り組みとしては、
- ・学士課程統合プログラム:学びとはどのようなものを教育する、すなわち受け身から主体的な学びへ学生の態度を変える
 - ・サービスマーケティング:ボランティア活動等を通じて学ぶ、世の中に出て社会との協働から学ぶ
 - ・徹底的な異文化教育
 - ・全学先導改革プログラム:全て英語による授業、少人数チューター教育といった先鋭的教育を100名程度から出発し、その後全学に広げる
 - ・柔軟な入学時期
 - ・英語による授業だけで卒業できるプログラム:多様な選択肢を提供

このような新しい教育課程を通して、大学での教育が世界を知る入口となり、国内における価値観や常識がグローバルな世界では通用しないことを体験することによって、真のグローバル人材を育成していきます。

■ 入試について

日本の教育を変えるためには、大学への窓口である入試制度を変える必要があります。大学入試制度が変わることで高校の教育も変わる、すなわち中学・高校への接続を考えて大学入試制度を変えていかなければなりません。その一つとして、従来の1回のみの筆記試験による選抜試験からキメの細かい入試制度への変更に取り組んでいます。

その第一歩として、まず英語の外部試験の活用を行います。現在の中等英語教育は、読み書きが中心となっていますが、社会で必要とされる英語力は、読み書き聞き話すという4技能となりますので、その4技能を測る入試の窓口を設けようというものです。

具体的には学内で作成する英語入試問題に替えて、GTEC、TOEFL、TOEIT、TEAP、IELTS等の外部試験のスコアを用いるグローバル入試方式を2016年度より取り入れます。

■ 経済人クラブとの連携について

このように、立教大学では様々な面で大学の改革に取り組んできました。また、大学と社会との連携については、これまで以上に経済人クラブ等の校友会組織との協働が必要であると考えています。特に、海外からの留学生は本国に帰ると連絡が取れなくなることが多く、留学生との連携・情報の共有化の必要性を感じています。今後は、国内、海外共に経済人クラブのような卒業生の組織との連携をさらに強化していきたいと考えています。今般、経済人クラブのオフィスとして学内施設を提供することに至ったのは、経済人クラブとの連携強化に向けての推進策のひとつです。

—吉原 伸隆 H4営—

株式会社ファルテック 東証一部上場の立役者 戸井田和彦氏をお祝いする会

2015年3月18日
ホテルニューオータニ東京
ザ・メイン「AZALEA」



株式会社ファルテックの東証一部上場を記念して、平成27年3月18日にホテルニューオータニに於いて、立教経済人クラブの副会長であり上場の立役者である、戸井田和彦氏(S50営)をお祝いする会が開催されました。

19時30分より発起人の一人である昆凡子拡大委員長の司会のもと会が始まりました。発起人代表の挨拶では、和田成史会長よりお話を頂きました。同じ、上場企業の代表としてのプレッシャーが並大抵のものでは無いことや、株価が付きたときに初めて実感が湧いたこと等、戸井田氏のご苦勞について共感させて頂くお話と共に、株式会社ファルテックは車の外装部品、カー用品の設計開発、生産、販売をしている会社で、戸井田氏とは十数年前の日産時代にカルロス・ゴーン氏のもとで働いている時に出会ったことなどの思い出をお話し頂きました。

続いて、今回の主役、株式会社ファルテック代表取締役社長戸井田和彦氏よりお話しを頂きました。「上場は目標ではなく通過点である。」「企業は常に個性的であれ。」といった、身に染みる言葉はとても印象的でした。また、日産では8年間もの間、「常務」の役職であり続け、これは同社の中ではとても珍しいことで、ひとえに「目立たなく仕事をする自分の性格」によるものであること、さらに大学別の上場企業役員数及び代表取締役数が集計されており、今回の上場で大学に貢献できたというジョークを交えたお話でとても盛り上がりました。

さらに、福島出身で白河大使をしている関係で、会津の日本酒を今回の会に用意したこと、お土産として起き上がり小法師を準備していて、これは福島の復興の象徴であり、「すべて起きあがることを確認しているので、もし起きあがらなければ連絡ください。」と会場を笑いに



包む楽しい挨拶でした。

ご挨拶を頂いた後に、ささやかながら出席者一同より記念品のネクタイと花束を贈呈いたしました。

続いて、長谷川正二郎顧問より乾杯の音頭がとられ、宴会が始まりました。長谷川顧問からは、立教経済人クラブの講演会で講演を聞いたときに知り合ったとのお話から、ご友人が株式会社ファルテックに訪問したことがあった際に、たまたま社長が不在だったが、秘書に連絡事項を伝えたところ、あたかも社長本人に伝えたかのように対応してもらったという経緯があり、こういった地道な努力こそが大切であり、実践できていることは素晴らしいとのお話しを頂きました。

歓談の時間では、KENNY氏によるサックス演奏や各テーブルから戸井田氏に対するお祝いのメッセージを一言ずつ頂きながら、母校の関係者、先輩、同友、後輩等との昔話や、新たにご挨拶をさせて頂いた諸先輩の皆様とお話しをしている間にあっという間に楽しい時間を過ごすことができました。終盤には、校歌・応援歌として高橋芳昭氏(S55立教高校)が壇上に立ち、しびれる声に導かれて全員で唱和し、戸井田氏にエールを送りました。

最後に、小坂哲瑯顧問より中締めのお話をもって、立教大学の益々の発展と出席の皆様の健勝、株式会社ファルテックの隆盛を願いながら三本締めにて閉会致しました。

—二瓶 豊 H10法—



資産を守る “ヘッジファンド”

まず、日本においては多くの人が、ヘッジファンドとはどんなものかを誤解しています。そもそも「ヘッジ」とは「回避する」という意味です。ですから、本来ヘッジファンドというのは、相場が上がったときだけでなく、下がったときにもリスクを回避しながら絶対収益の追求を目的とする金融商品だということです。しかし、リスクをとって市場を混乱させる元凶として、メディアから叩かれることも多く、日本では資産運用の有効な手段として、これまではなかなか広がらなかったわけです。

一般的な株式投資信託は「買い」だけで運用されます。ここ数年はアベノミクス効果もあり、相場全体が上昇しているのですが、潜在的な経済成長力が落ちてきた日本では、この相場がいつまでも続くとも限りません。08年にはリーマンショックの暴落もありました。ヘッジファンドは株式や債券だけでなく、為替、金、原油、農作物などの様々な相場に目を光らせて、売買を駆使しています。これは忙しいビジネスパーソンにはとてもできません。ですから、投資はプロに任せるべきだと思います。

私たちが特におすすめているヘッジファンドでは、日本株のマーケット・ニュートラル運用という戦略に特化しています。株価が下落すると予想すれば、割高な銘柄は積極的に空売りをを行い、買い戻して利益を出す手法を組み合わせます。つまり、買いだけでなく、空売りやデリバティブ(指数先物やオプション等)を駆使して、市

日経平均株価は4月22日に2万円を突破しましたが(終値ベース)、昨今お客様からは、「株や不動産は高くなってしまったからもう買えない」というような問い合わせをいただくようになりました。今まで株式や不動産で資産運用してきた人の中には、これからの投資をどうしたらよいか悩んでいる人が多いのではないかと思います。そこで資産運用の新たな選択肢として、ヘッジファンド運用をご紹介させていただきます。

場全体の動きに対して常に中立になるように、リスクをヘッジしながら運用するので、相場が上げでも下げでも収益機会を逃すことなく長期的に安定してリターンを得られるのです。しかも、買いも売りも常時300から500銘柄に分散させてリスク管理を徹底しています。

実際08年には、日経平均は42%も暴落しました。しかし、ヘッジファンド証券が取り扱っているファンドの運用会社の主力ファンドは約17%のプラスになりました。これはヘッジファンドが下げ相場でも収益を得られる一例ですが、だからこそ下げ相場にも強く安定的に収益を生み出せるヘッジファンドを運用資産に組み入れることが、いかに効果的かをご理解いただけたと思います。

当社は、これまで日本の資産運用においてはなじみの薄かったヘッジファンドを提供する証券会社です。当社では、下げ相場でもリスクを回避しながら絶対収益の追求を目的とするヘッジファンドという運用手法を通じて、11年から広く一般の投資家にもファンドの販売をしています。

これまで、ヘッジファンドというとプロ向け商品という印象でしたが、当社では、一般の方でもインターネットを通じて小口から投資できるように準備をしました。また、セミナー開催などを通じて、投資家の皆様にヘッジファンドの素晴らしさをお伝えするとともに、長期・安定的な資産運用の有効な手段として、もっと日本で広めてゆきたいと考えています。

投資にもっとも必要なのは、いかに機敏にリスクを回避しつつ、安定的に利益を上げられるかだと考えています。超低金利時代が続く日本において、新たな資産運用のメソッドとして、ヘッジファンド投資を考えてみてはいかがでしょうか。

ヘッジファンド証券株式会社
代表取締役 植頭隆道(H14社)

ヘッジファンド証券株式会社
第一種金融商品取引業
関東財務局長(金商)第2580号
加入協会 日本証券業協会
HP <http://hedgefund-sec.com>
Facebook <https://www.facebook.com/teppeki>
取扱金融商品を「ヘッジファンド」に特化した証券会社。市場に中立の立場をとった「絶対収益の追求」を目的とした商品を提案している。

本記事は情報提供のみを目的としたものであり、金融商品の取得の勧誘を目的としたものではありません。投資信託は元本の保証された商品ではありません。また、購入時手数料、運用管理費用等の費用が発生します。リスク、費用等の詳細は当社のWebサイトに掲載する交付目論見書等でご確認ください。

連載

グローバルリーダーへの道(第8回)

グローバル人材と論理的思考能力

日本人が海外赴任先などでなかなかリーダーシップを発揮できないのは円滑にコミュニケーションがとれないことが最大の要因です。前回提示した異文化適応能力は文化や価値観の違いを受け入れた上でのコミュニケーション能力です。勿論、語学力は卓越したレベルが求められます。

語学サービス事業を全世界で展開しているベルリッツ社のCEOである内永ゆか子さんは日本IBMの大先輩であり、日本人女性の中では最も象徴的なグローバルリーダーの一人です。「論理的思考(ロジカルシンキング)は共通言語である」と、或る会合で話されていました。

主語がなかったり、曖昧性で成り立つ日本語はローカルルールなのです。また、グローバルマインド

という点では、自己の意見を伝えることは当たり前であり、会議で発言をしなければ、能力がないからと評価されてしまいます。

軋轢を恐れず、自分の意見を言うことから始めることです。例えば、研修や講演の場でも、いっしょに質問することをクセにするくらいでグローバル人材に近づけるといいます。

「論理」とは言語+数字から成り立つものです。つまり、定性的ではなく定量的に表現することが出来なければ論理的とは言えません。こちらも意識されて下さい。ビジネスの世界で紐づける数字は売上拡大とコスト削減の2つに集約されます。

経営者は投資の判断をこの2つの観点での合理性、納得性で評価します。提案書・企画書にはきちんと定量的な効果を提示するように心

掛けましょう。

質問するクセ、定量的に表現するクセを付けることが論理的思考への道です。更に、語学力は一日にしてならずです。毎日30分、移動時間等を用い、聞いたり読んだりするクセをつけましょう。

—藤田 聡 S62営—

ご質問・ご意見・ご感想があれば、fujita@v-change.co.jpまで。
蛇足ですが、弊社の中小・ベンチャー企業向け社員力向上支援サービス「人財開発研究所」が先日、日経産業新聞のトップ面に取り上げられました。「中小企業の組織活性化から日本を元気に!」で邁進しております。

ご関心があれば、下記まで。
www.v-change.co.jp/jinzai_kaihatsu

当クラブ理事の藤田 聡さんが3年半ぶりに10冊目の著書を出版されました!

「夢は目標ではなく、成長の手段である。」

(ダイヤモンド社刊、2015年7月刊)

書籍概要のURLはこちらまで▼

<http://www.v-change.co.jp/book/index.html>

ご推薦の言葉:

“破格の成功を収めた起業家の多くは、創業時から心に独特のビジョンを抱き、不屈の意志を最大の武器として幾多の困難を克服し、卓越した成功を収めてきた。本書は、独特の能力測定データに基づいてビジョンの有益性を実証した点で、成功を目指すビジネスパーソンに貴重な示唆を与えるに違いない。”

野田一夫氏(元立教大学教授、日本総合研究所会長、多摩大学名誉学長)

立教大学経済学部のカリヤ教育の取り組み

大学のキャリア教育について、経済学部の取り組み第2回目は、キャリア教育が強化された背景と、本年度の取り組みの様子等を、キャリア教育担当の遠山教授とコーディネーターの小泉様に寄稿いただきました。

経済学部キャリア教育強化のあゆみ

立教大学経済学部キャリア教育運営委員会座長 遠山恭司(経済政策学科教授)

立教大学経済学部教育研究コーディネーター 小泉苑美

立教大学経済学部は、キャリア教育以前に学内の教育活動推進助成(通称、立教GP)を受けて、「初年次教育における学習意識と基礎能力の育成プログラム」(2009～2011年度)に取り組みました。同じころ、全学的に学部の特性や専門性に応じたキャリア教育強化の必要性が唱えられ、キャリアサポーター制度が導入されました。

これを機に経済学部では、専任教員とキャリアサポーターからなるキャリア教育運営委員会を新設しました。そこで前GPの成果と課題を引き継ぎ、「経済学部キャリア教育改革プログラム」として新たなGPを2013年度から4年間にわたって展開しています。入学から卒業までを通して、学生の段階的な成長を後押しするキャリア教育の拡充および体系化を目指しています。

まず、キャリア教育の観点から現状を分析し、

課題を整理するために卒業年次の浅い社会人(2009～2011年度)を対象にアンケート調査を実施しました。具体的な計画を立てる上で、実際に本学部の教育を受けた卒業生のリアルな声にこそ、学部教育をより充実させるためのヒントが隠されていると考えたからです。そうした評価を受けることで、「社会から見た立教大学経済学部」を私たちが客観的に認識する一助にしたいという思いがありました。

その結果から導き出された学部教育に対する4つの課題は、「初年次教育の充実」「少人数教育の充実」「社会連携により開講される科目・演習の充実」「グローバル教育の充実」でした。それを受けて、経済学部では、学生が新たな一歩を踏み出せるような様々な挑戦しがいのあるプログラムを企画・実施しています。

「スタディサポートプログラム2015」実施報告

立教大学経済学部教育研究コーディネーター 小泉苑美



晴天に恵まれた2015年4月2日、経済学部オリジナルの新生オリエンテーション企画「スタディサポートプログラム2015」が開催されました。

当プログラムは、「①新生が高校までの学び方と大学での学び方の違い

を知り、大学での学びに期待と意欲を持つ、②新生が、経済学部の先輩の姿を見て、自分の将来像のイメージを掴む、③新生の緊張を和らげ、友達づくりのサポートをする」の3点を目的に、学部を代表する新2・3年生のスタッフが新生約700名を歓迎し、当日のプログラムの運営全てを担うという、上級生の成長の場としても大きな役割を果たす内容となっています。

3回目の開催となった今回、スタッフの学生に挑んでもらったミッションは、

「立教大学・経済学部を新生に紹介するCMを制作せよ」というものです。これまで自分たちが過ごしてきた学生生活を振り返りながら、「他の誰でもない、同じ経済学部の先輩だからこそ伝えられるメッセージ」は何であるかを、各グループで話し合い、2分間のCMで表現してもらいました。

12月から懸命に準備を重ねてきた結果、新生からは「これからの大学生活が楽しみになった」「積極的に色々なことへ挑戦していきたい」という前向きなコメントが多く寄せられ、過去最高の満足度を獲得することができました。

人のために何かを創り上げる大変さと、人を楽しませる喜びを知ったスタッフのメンバーが、更に幅広く活躍してくれることを学部として期待しています。そして、心からの歓迎を受けた新生の皆さんが、1年後、先輩としてこのステージで輝かしい姿を見せてくれることを、今から楽しみにしています。



卒業生&在学生交流団体「四丁会」のご紹介

経済学部では、「立教大学経済学部」という同じバックグラウンドを持つ卒業生と在学生、また卒業生同士の交流を活性化させ、長期的視野にたったキャリア支援へつなげることを模索しています。

そのような中、昨年12月に開催された『第1回赤レンガセッション』をきっかけに、若手の卒業生と在

学生の計13名が執行部を務める、新たな交流団体「四丁会(よんちようかい)」が設立されました。今後、彼ら彼女らが交流イベントの企画・運営の中心を担い、より幅広く多彩なつながりを創出できるような企画を仕掛けていきます。これからの活動に、ぜひご注目ください!



☆四丁会主催イベントの情報は、Facebookページや、経済学部キャリア教育サイトのメールマガジンにて配信いたします。

・経済学部キャリア教育Facebookページ: www.facebook.com/Rikkyo.Economics.Career

・経済学部キャリア教育サイト「STORY」: <https://rikkyo-ecocareer.jp>

(OB・OGサポーター登録をしてくださった方へ、メールマガジンをお送りしております。)

建学の精神をたづねて

神保町シンクタンク
黒田裕治(78年3月 法学部卒)

近代日本の始まりについては「新政府の成立に則って明治維新(明治元年、1868年)による皇室への大政奉還・王政復古とする説と、江戸時代末期の日米和親条約による開国(嘉永7年、1854年)とする説の」2説がある。立教は1874年2月にウィリアムズ主教が築地に私塾を開いた時点を創立年とし、昨年140周年を迎えた。詳細は立教大学のホームページに掲載されているが、近代日本の始まりとなったその時代に建学されたことに大いに興味があり、アワサイド(創立した側)とヒズサイド(一応客観的というかヒストリーとして)の両面から光を当てて見たいと思う。残念ながら拙は歴史学者でも聖公会でもなく、単純にアルムナイ(alumni:はalumnusの複数形で、本来は「卒業生、同窓生、校友」の意味)としてケンガクノセイシをたづねたいと思うので、学術的価値、や立教史の編纂には全く寄与しない(笑)言ってみれば、母校愛の発露ということでご勘弁願いたいのだ(恐縮)

注入:ガーディナーの築地鳥瞰図



プロフィール

1955年7月4日 広島県尾道市 生まれ
立教高等学校 立教大学を経て
近畿日本ツーリスト株式会社に勤務
2012年、独立して安曇野シンクタンク創立に加わり、
現 神保町シンクタンクを主宰

*この鳥瞰図は見た人も多いただろう。建築家で後の立教学校長 J.M.ガーディナーの製作である。日本の近代化を知るには、各外国人居留地、特に神戸、横浜、築地をたづねたいものだ。我々アルムナイは当然建学の聖地築地に想いを馳せて参ろう。おや、ところがこの築地は母校含めなんと11のミッションスクールの発祥地となっているではないか? あまちゃんならじえじえ! さかなくんなら、ぎよぎよぎよである(築地だけに!)慶応大学(今の築地明石町に蘭学塾を福沢諭吉が開塾:慶応大学ホームページより)含め12大学の発祥の地が築地である。明治学院、女子学院、青

山学院、立教大、立教女学院、雙葉学園、暁星学園、関東学院、女子聖学院、工学院。正確には聖路加看護大とアメリカンスクールを加えて14の教育の原点が発生し、日本の近代化のインキュベーター(孵卵器)であったといっても過言ではない。拙の疑問点と知りたい課題は以下の如くである。
*なぜ、築地が居留地となったのか? 横浜と近いのに、港がないのに。
*なぜ、居留地にミッションスクールが開校されたのか。
*日本の政府と居留地の微妙な関係。(なぜ築地は葬り去られたか)

*居留地と日本の産業の繋がり(観光学科がある立教との赤い糸はあるのか)
*建学苦難の歴史(戦前戦後と天変地異をくぐり抜け)
*リベラルアーツとミッションスクール(官製リベラルアーツと私学の相違)
*鮭の遡上、立教健児のバックトゥスクール(スーパーグローバル大学とアルムナイの良好な関係)
以下 次号に(出番があれば)乞うご期待!!!

参考 築地居留地 Vol.■ 築地居留地研究会



立教経済人クラブ 各委員会より

●総務委員会

総務委員会が担当する主な事業は、定期総会と新春名刺交換会、そして会員名簿の作成です。定期総会と新春名刺交換会では、出席された方々に、立教らしい肩肘張らない楽しい雰囲気を演出していく中で、会員相互の親睦を深めていただきたいと思います。今回は会員数の大幅増が見込まれます。懇親会では会員だけでなく、大学・学院側との交流も、われわれ総務委員や他各委員が、積極的に新入会員のご紹介などの橋渡し役を努めてまいりたいと思っております。また会員名簿の作成については、その製作費用のすべてが皆さまの広告掲載料で賄われております。今回はページ数の増加も予想されますので、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。現在、総務委員会では人員が足りておりません。委員会の活動に少しでもご興味ございましたら、是非事務局にご連絡いただき、運営委員会に遊びにいらっやってください。昨今女性の登用があちこちで叫ばれております。総務委員会も大歓迎です。 —湯浅 修 S59産—

●対外交流委員会

対外交流委員会では、立教経済人クラブのみならず、立教他団体や他大学の経済人、プロフェッショナルとの交流・親睦を図る目的で活動を行っております。2015年9月に「2015経済人交流ゴルフ」と題してゴルフコンペをよみうりゴルフ倶楽部にて開催致します。上場企業・店頭公開企業を含む、立教大学を代表する経営者の方々をホスト役に、他大学の経済人をお迎えし「交流と親睦」を目的としたイベントも今年で5回目を迎えます。2014年は他大学OBを含めると、8名の上場企業の社長・副社長経験者をはじめ、未上場ながら知名度抜群の企業や、その分野では世界シェアを持つ企業、老舗企業や外科医師などのプロフェッショナルが集まりました。経済人クラブの英語名称であるEXECUTIVE & PROFESSIONALSの異業種の方々にご参加頂きました。今後も更に沢山の方々と交流の機会の一助を担って参り

と思っています。今後とも皆様のご支援、ご協力を
お願い申し上げます。 —安東 隆司 H1社—

●スポーツ委員会

7月下旬と12月上旬にゴルフ会を開催しております。夏の会
はここ数年、東京ゴルフ倶楽部にて開催しております。埼玉
県狭山市にごございます歴史ある名門コースです。お気軽に
行けるコースではないので楽しみにされている方も多いのでは
ないでしょうか。毎回30名近くのご参加を頂き、賑やかな
パーティーもとても盛り上がっています。秋の会は毎回違う
コースになります。最近ではよみうりゴルフ倶楽部、袖ヶ浦カ
ントリークラブ 新袖コース等に開催しております。少し接待向
きのコースもあれば、プロのトーナメントを開催しているチャン
ピオンコースもありお楽しみ頂けると思います。ゴルフは1日を通
して先輩後輩がコミュニケーションをとることが出来る素晴ら
しいスポーツです。皆様のご参加をお待ちしております。

—長倉 一裕 S9法—

●活性委員会

活性化委員会は主に新入会員の方々と既存会員をおつ
なぎするという使命をもっています。入会していただいても、会
になじめない、話す相手が少ないなど最初はご不安が有ろう
かと思えます。最初の数回は参加したものの徐々に行き難く
なってしまう、というお声があったので、当委員会では第一
に「ウェルカムナイト」と称した懇親会で同じ時期に入会した
新入会員様同志の懇親と、我々運営側委員長と交流を深め
ていただくことを行っています。その後、総会・新年会などで
運営委員長が既存会員の方がたに新入会員をご紹介する
ことで人脈交流のお手伝いをいたします。また、立教らしく、ク
リスマスパーティを企画し、立教OBOGならではのクリスマス
を家族や社員の皆様と楽しんでいただいております。新旧会
員各位の交流活性化の為にいろいろ試行錯誤しております
ので是非ご忌憚ないご意見などお持ちの方はご指導いた
だけますと幸いです。 —林 雄太 H7営—

●拡大委員会

拡大委員会は、会員の拡大と、新入会員が早くクラブに溶

け込むためのお手伝い、そして、顔と顔がわかる程度の小規
模な親睦会のサポートを中心に活動しております。女性会員の
活性化や、年齢層の幅広い交流についても役立つアクション
を展開しております。その中でも会員拡大といたしましては、
まず第一に会員各位のご紹介を大事にしておりますので、皆
様のお友達、お近くにいらっしゃる方々のご紹介をぜひよろ
しくお願いいたします。新入会員が経済人クラブに早く溶け込
めるようなお手伝いとしては、年に2回「ウェルカムナイト」をサ
ポートしております。新入会員を、クラブのメンバー、運営委員
会のメンバーが暖かく迎える和気藹々とした楽しい会です。
顔と顔がわかる範囲の小規模な懇親会としては、年二回「グ
ルメ会」をお手伝いしております。「グルメ会」は、隠れた名店
やおいしいお店を会員からご紹介いただき、皆でテーブルを
囲んで、楽しく懇親のお集まりです。ご家族やご友人と同伴
で参加していただけますので、経済人クラブに誘おうと思っ
ているお友達をご同伴いただければクラブの雰囲気をご理解
いただく場として最適です。皆様振るってご参加ください。

—昆 凡子 S4仏—

●産学連携委員会

産学連携委員長の上小牧です。早いもので、無事4年目を迎
えることが出来ました。これも経済人クラブの会員、担当教授
の方のお力添えがあつてと感謝の気持ちで一杯です。丁度
一年前から都内から藤沢に引っ越しをし、それぞれの会合に
出る回数は減りましたが、なるべく無理のない範囲で協力出
来ればと思っています。各関係者の皆様、引き続き宜しくお願い
いたします。

—上小牧 政章 H17院ビ—

●会報委員会

会報委員会では、年3回会報誌を作成し皆様にお届けし
ております。その他に、立教家財人クラブのホームページの制
作、運用を行っております。会報誌には、クラブの活動のほか、
大学の近況などを掲載しております。最近では、会員のビジネ
ス紹介、会員によるコラムなども掲載しております。掲載希望
のネタがありましたら会報委員まで一声かけてください。また、
会報委員を手伝っていただける方も募集しています。よろしく
お願いいたします。 —徳澄 範光 S62数—

新しく会員になられた方々

(敬称略)

大貫 広光 平成27院社デ
(株)鹿沼工務店
代表取締役
〒174-0074 板橋区東新町1-14-12-2F
TEL:03-3972-3617
FAX:03-3530-1989
E-Mail:kanuma@bf.wakwak.com
建設業

久保 泰一郎 平成23経
有限責任監査法人トーマツ
〒100-6211 千代田区丸の内1-11-1
PCPMビル
TEL:03-6213-1191
E-Mail:taiichiro.kubo@tohmatu.co.jp
監査法人

木暮 淳子 平成18院ビ
フェリックス・パートナーズ(株)
常務取締役
〒104-0031 中央区京橋1-5-12
マルヒロ京橋ビル6階
TEL:03-5542-1584
FAX:03-5542-1585
E-Mail:jkogure@felix-partners.com
経営コンサルティング、教育研修業

鈴木 一広 平成3法
シャングリ・ラ・ホテル東京
シニア セールスマネージャー
〒100-8283 千代田区丸の内1-8-3
TEL:03-6739-7550
FAX:03-6739-7551
E-Mail:kazuhiro.suzuki@shangri-la.com
ホテル

関口 康晴 平成11院法
山下・渡辺法律事務所
弁護士
〒100-0005 千代田区丸の内3-4-1
新国際ビル4階433区
TEL:03-5208-1026
FAX:03-5208-1028
E-Mail:sekiguchi@ywa.itplugin.net
法律業

高柴 弟 昭和63営
(株)熊谷組 首都圏支店
営業部 部長
〒162-8557 新宿区津久戸町2-1
TEL:03-3260-4601
FAX:03-3266-1715
E-Mail:dtakashi@ku.kumagaigumi.co.jp
総合建設業

高橋 弘光 昭和58経
(株)オリコム
常務取締役 営業本部長
〒105-0004 港区新橋1-11-7
TEL:03-6733-2030
FAX:03-6733-2551
E-Mail:takahasihrm@oricom.co.jp
大正11年創業の広告会社

内藤 勝弘 昭和53営
(株)東西堂書店
代表取締役
〒101-0003 千代田区一ツ橋2-6-12
TEL:03-3261-5631
FAX:03-3261-5632
貸ビル

平林 武昭 昭和37経
日本システム技術(株)
代表取締役社長
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島2-3-18
中之島フェスティバルタワー29階
TEL:06-4560-1000
FAX:06-4560-1009
E-Mail:t.hirabayashi@jast.co.jp
コンピュータ ソフトウェア開発・販売

森 弘樹 平成8産
タカセ洋菓子(株)
常務取締役
〒170-0013 豊島区東池袋1-1-4
TEL:03-3971-0211
FAX:03-3971-0215
E-Mail:hirokim@takase-yogashi.com
パン・洋菓子製造販売

安田 将哉 平成25メディア社
損保ジャパン日本興亜(株)
トータルライフアドバイザー
〒170-0013 豊島区東池袋1-10-1
住友池袋駅前ビル8F
TEL:03-5979-8088
FAX:03-3987-6450
E-Mail:m.yasuda@star.ocn.ne.jp
保険

矢田部 修一 昭和60観
(株)日本旅行
執行役員 ソリューション営業本部長
〒160-0017 新宿区左門町16-1
TEL:03-5369-4550
FAX:03-3225-1001
E-Mail:syuichi_yatabe@nta.co.jp
旅行業

山村 寛 昭和51営
山久産業(有)
代表取締役
〒101-0051 千代田区神田神保町1-29
TEL:03-3295-0109
FAX:03-3295-0190
E-Mail:yamakyusangyo@gmail.com
不動産賃貸業

依田 達夫 昭和47営
司法書士依田法務事務所
顧問
〒175-0094 板橋区成増2丁目10番3号
三栄ドメール105
TEL:03-6801-6988
FAX:03-6801-6989

2015年度 事業計画書

2015年8月	経済学部インターンシップ支援	場所未定	(募集)
2015年9月	女子会	場所未定	(募集)
2015年9月	他団体交流ゴルフ	場所未定	(募集)
2015年9月	グルメ会	場所未定	(募集)
2015年10月	朝食勉強会	場所未定	(募集)
2015年11月	ウェルカムナイト	場所未定	(募集)
2015年12月	第68回ゴルフ会	場所未定	(募集)
2015年12月	クリスマスパーティー	場所未定	(募集)
2016年2月	新春名刺交換会	日比谷松本楼	(募集)
2016年3月	朝食勉強会	場所未定	(募集)
2016年3月	グルメ会	場所未定	(募集)

運営委員会に参加しませんか?

経済人クラブの運営を手助けしてくれる有志を求めています。毎月1回の運営委員会に参加して頂き(本業優先で結構)、自分の役割を片手間にこなして頂くだけです。特別な資格、スキルは一切要りません。本業に影響が出るようなこともありません。必要なのは、経済人クラブの仲間と交流したいと思う気持ちだけかな!? 打合せ終了後の飲み会が楽しみかも?

編集後記

ここ1年、タイと日本を行ったり来たりしており、ゴルフバッグを一緒に持ち歩いていました。

さすがに面倒になり、日本サイドで新しいセットを作ろうと決心し、ネットであれこれ探してみました。当初は、有名どころのメーカーの新品品を安く買おうと検討していましたが、ネット広告で誘導されて聞いたことも無いメーカーの激安クラブ(アイアン8本セット: ¥19,800、FW3本: ¥14,940)を買って(クリックして)しまいました。当然、試し打ちどころか触ってもないので、不安はありましたが、口コミのコメントが充実しており、試してみようかなと買ってしまった次第です。

私もネット関連の仕事をしているので、移り気な消費者心理の勉強にもなったとともに、新しいセットで早くコースに出たくて待ちきれません。

—徳澄 範光 S62 数一

立教経済人クラブ ウェブサイト

<http://www.r-keizaijin.net>

立教経済人クラブでの、過去の行事や活動はウェブサイトでご覧頂けます。



Facebookで、立教経済人クラブのグループに参加しよう!

セミナーや新製品の告知、交流の場としてドシドシ投稿してください。